2020年３月初版発行　発行：南あわじ市

隠された歴史の謎を解き明かせ！

南あわじの古代の秘密

Vol. 1

わたしたちが暮らしている地面の下には、実は数百年前・数千年前に暮らしていた、わたしたちのご先祖様が残した宝物が隠されている。古い段階の銅鐸といわれている松帆銅鐸がどうして南あわじ市にあるのか？こんなにも多くの遺跡が、淡路島の中でも南あわじ市に集まっているのはなぜ？埋蔵文化財を研究したり、保護したりしている埋蔵文化財事務所の皆さんとともに、歴史の魅力をお届けします。

埋蔵文化財調査事務所に潜入！古代に触れる音を聞く！

神代國衙の交差点近くにある埋蔵文化財調査事務所は、南あわじ市の歴史のヒミツがいっぱい詰まった素敵な場所。わたしたちが暮らす町の過去に住んでいた人や生活、文化を調べる楽しさを伝えるべく、事務所に潜入してみました。すると、ワクワクするような、いろんな「音」に出会えました！

01 掘り出した土器をあらう

ごしごし

土器を洗う音

発掘現場からは大小さまざまな土器のカケラが見つかります。まずは、集めてきた土器のカケラを水で洗い、長い時間をかけて付着した泥や汚れを「ごしごし」落とし、キレイな状態にします。

02 土器のカケラのパズルに挑戦

おちゃおちゃ

カケラを合わせる音

当時の生活やお祭りの風景を想像させてくれる土器。その時代の壺や皿の形を再現させるため、カケラを「かちゃかちゃ」とまるでパズルを作っていくかのように、つなぎ合わせていきます。

03 カケラをつなぎ立体的な形に

ぺたぺた

破片をつなぐ音

発見された土器のカケラには、パズルのピースのように足りないものもいっぱい。そんなときは、復元専用の粉を水で練ったモルタルを接着剤として「ぺたぺた」と塗り、立体的な形を作り上げます。

埋蔵文化財調査事務所 定松さんがあっと驚く！こっそり教える！南あわじ市の歴史トリビア

発掘現場からは縄文時代・弥生時代の遺跡が発掘されたり、江戸時代の家のあとが出現したり。私たちが暮らす南あわじ市の歴史のヒミツを定松さんに聞いちゃいます！

定松）南あわじ市には、淡路島で一番大きな三原平野が広がっています。明治時代に入ったくらいの新聞の付録である「淡路温故図（おんこず）」というものには、榎列下幡多のおのころ島神社近くまでは海だったという絵図が描かれているんですね。
ーーー今から2000年前の南あわじ市の風景は、どんな景色だったんですか？

定松）松帆銅鐸の研究の中で、「弥生時代の地図を作ろう！」というプロジェクトがあり、松帆地域のボーリング調査をすることになりました。その結果、2000年前の地層は砂や細かい粘土、そして貝殻が出てきたんですよ！
ーーー貝殻でわかることって、どんなことですか？
定松）貝の種類を調べると、いろんなことがわかります。例えば、淡水の貝か、海水の貝かで、この場所がどのような環境だったかもわかってくるんです。そして、松帆地域は人が住みづらい湿地や内海だった時があったということがわかりつつあるんですよ。これからも、いろいろな角度から調べて、弥生時代の南あわじ市の謎を解き明かしていきたいですね。

定松佳重さん
南あわじ市教育委員会 埋蔵文化財調査事務所に所属。2015年の松帆銅鐸の発見より前から、調査の最前線で南あわじ市の歴史を調査に臨んでいる。市島内・島外でも数多くの講演を担当。

南あわじ市内で歴史文化を楽しめるスポット 3

松帆銅鐸のVR体験ができる！

南あわじ市滝川記念美術館 玉青館

淡路島の伝統工芸の淡路瓦をあしらった玉青館。現代南画の第一人者である直原玉青（じきはら ぎょくせい）氏の作品を展示する日本初の現代南画美術館です。松帆銅鐸を紹介する特設コーナーも設置されています。

住所／南あわじ市松帆西路1137-1　時間／9時～17時（入館受付は、16時30分まで）　休み／毎週月曜日（祝日の翌日は休館）、年末年始　料金／大人300円、大・高校生200円、小・中学生100円　電話／0799-36-2314

「松帆銅鐸」は、秋に玉青館にて展示される予定！

全国に文化を広げた淡路島が誇る郷土芸能

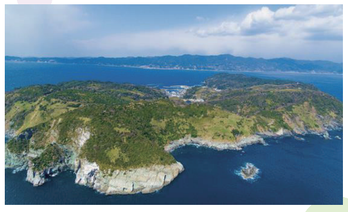
淡路人形浄瑠璃館 淡路人形座

淡路人形浄瑠璃は、全国各地に人形芝居を伝えた淡路島が誇る郷土芸能。時代物を得意とし、気軽に楽しめる早替りや道具返しなどの淡路独特の派手な演出や演技、女性の座員も活躍する舞台は華やかです。

住所／南あわじ市福良甲1528-1地先　時間／9～17時　休み／水曜日(祝祭日の場合は翌日)、臨時休演あり　料金／大人1,800円、中高生1,300円、小学生1,000円　電話／0799-52-0260　HP／http://awajiningyoza.com/

数々の伝説を持つ1億年前からある島

沼島



南あわじ市灘の沖4.6キロに位置し、土生港からの沼島汽船によって結ばれています。神々がつくり出した最初の島「おのころ島」だという伝説や、名前は「国生み神話」の「沼矛（ぬぼこ）」に由来するという説もあります。

住所／南あわじ市沼島2400　時間／9:30～17時　休み／月（不定）・水・木曜日　電話／0799-53-6665　問い合わせ先：「吉甚」HP／http://nushima-yoshijin.jp/

松帆銅鐸
特設ホームページ

ホームページ　https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/site/matsuhodotaku/
facebook　https://www.facebook.com/matsuhodotaku/?ref=br_rs

スゴイ！が盛りだくさん 市内のおもしろ銅鐸 BEST 3

淡路島の中でも銅鐸の発見数が特に多い南あわじ。埋蔵文化財調査事務所がオススメする3つの銅鐸をこっそりお伝えします！

1 慶野銅鐸

日光寺銅鐸の近くから江戸時代末に見つかった貴重な銅鐸。4本足の動物が描かれているのが、愛らしい。「蕨手文（わらびてもん）」という植物の蕨（わらび）が描かれているのですが、蕨が地面から芽を出している絵は、他の銅鐸には見られないとても珍しいものなのです。
※出土地：松帆慶野

2 中川原銅鐸

江戸時代の人が夢の中で「池に宝物が埋まっている」という夢を見て、掘ってみたら本当に出てきたという銅鐸。当時はキリスト教の鐘だと思って、捨ててしまったらしいんです。でも、南あわじ市津井の隆泉寺に残っていた。夢の話といい、残っていた経緯といい、不思議でいっぱいの銅鐸の1つです。
※出土地：洲本市中川原

3 日光寺銅鐸

同笵（どうはん）といって、松帆銅鐸と同じ鋳型から作られた兄弟銅鐸。つまり、描かれている模様は松帆銅鐸と全く一緒なんです。鹿が描かれていたり、吊り手の部分に斜めの格子文（こうしもん）が入っているのは全国的にも珍しく、現代に生きている人が見ても、見た目もデザインもとっても美しい。
※出土地：松帆慶野

もしかしたら国宝級!? 弥生時代の松帆銅鐸を徹底解説

当時のお祭りの道具であり、当時の最新技術で作られた謎多き一品。2015年の発見以降、さまざまな研究が重ねられ、古い段階の銅鐸であり、歴史の教科書を変えてしまうくらいの文化財だということがわかってきました。新事実も含めて、改めて松帆銅鐸ってどんなもの？を、ご紹介します。

松帆銅鐸がついにわが町に帰ってきます

2015年4月に南あわじの松帆周辺から採取された砂の中から、弥生時代の銅鐸7点が発見されました。たくさんの新聞に掲載され、多くの歴史ファンが注目をする「松帆銅鐸」は、数年の間、奈良県にある奈良文化財研究所にて細かく調べられ、新しい事実がたくさんわかってきました。そして、2020年度内に南あわじ市に帰ってくる予定です。目の前に広がる海やしまなみ、自然に囲まれた山々など、銅鐸がリアルタイムに使われていた2200年前から変わらない風景を今でもかんじられる南あわじ市。松帆銅鐸の存在やミステリアスな謎に触れることによって、「眼の前に広がる見慣れた風景の中にも、昔は銅鐸が祭礼で使われていたような、今とは全く違う文化があったんだな」という歴史的な面も多くの方に知ってもらいたいですね。

2千年前のひもに隠された真実って？

銅鐸がどうやって音を鳴らしてきたかについて、いろいろな説がありました。でも、今回の「舌」には、当時使っていた状態や2200年前の紐の痕跡があり、さらに、吊って使われていたと考えられる状態のものが歴史上初めて出土したのです。確実にいえることは、今まで予想されてきたものが、松帆銅鐸によって初めて「痕跡」として確認できたということ。これは、今までの歴史の教科書に書かれていた内容を、大きく変えてしまうくらいのビッグニュースなのです。

古代をデジタルに楽しむ！

最新VRでタイムトリップ体験

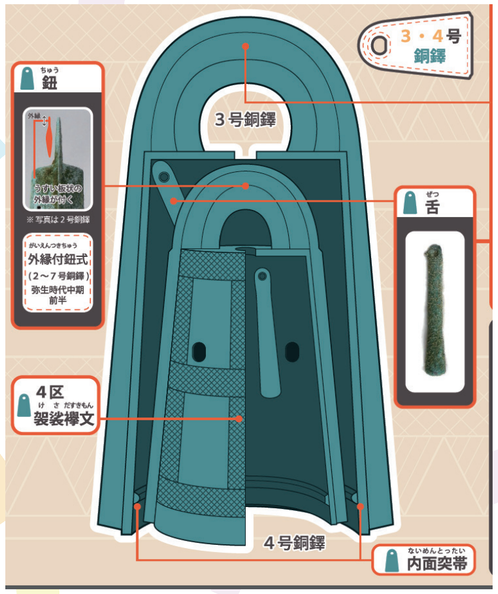
南あわじ市滝川記念美術館 玉青館の中だけで体験できる最新VRが2018年に完成しました。ゴーグルをかけるだけで弥生時代にタイムトリップ。松帆銅鐸の時代にGO。

大発見！松帆銅鐸アニメーション

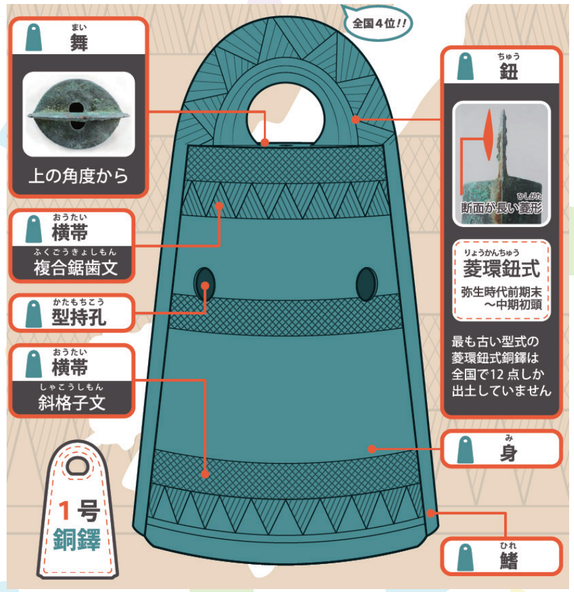
松帆銅鐸に関する歴史が、約4分のアニメに！YOUTUBEにアップされているオリジナル動画をチェック。

入れ子銅鐸に「舌」が7本も！

松帆銅鐸は「舌」を吊り下げたまま、大きい銅鐸に小さい銅鐸を入れた入れ子にして埋められていました。銅鐸と舌が一緒に発見されたのは、とても珍しいことで、合計7本もの舌を発見。また、銅鐸の吊り手や4本の舌に、吊り下げるためのひも（組ひも・よりひも）やひもの跡が残っていました。これは全国で初めて。銅鐸の使い方の研究が大きく前進しました。



松帆銅鐸の特徴、教えます！

発見された7個の銅鐸のうち1個は、全国でも11例しかない、最古段階の菱環鈕式（りょうかんちゅうしき）という形式の銅鐸でした。他の6個は次に古い外縁付鈕式（がいえんつきちゅうしき）という形式。

松帆銅鐸が見つかった「松帆」という場所は、過去にたくさんの銅鐸や銅剣が発見されていることから、青銅器を埋める神聖な場所だったのではないかと専門家の中でも注目が集まっています。